

令和4年度 第1回徳島県文化創造審議会 議事録

I 日時

令和4年8月31日（水）午後1時30分から午後3時まで

II 場所

徳島グランヴィリオホテル1階 グランヴィリオホール

III 出席者

【委員】20名中17名出席

田村禎通会長、吉田和文副会長、阿部曜子委員、有内則子委員、大石雅章委員、加藤篤委員、清水英範委員、鈴木アヤ子委員、高橋敬治委員、西村美咲委員、花柳淳吾委員、藤本和史委員、南豊美委員、三宅孝典委員、宮脇由里委員、森恵子委員、四十宮隆志委員

【徳島県】

上田輝明未来創生文化部長、益田英栄文化・未来創造課長

IV 次第

1 開会

2 議事

(1) 会長・副会長の選任について

(2) 「徳島県文化芸術推進基本計画」の令和3年度の進捗状況について

(3) 令和4年度の文化芸術関連事業の状況（新ホール整備関係含む）について

(4) その他

3 閉会

V 議事の概要

議事1について委員の互選により、田村委員が会長、吉田委員が副会長に決定

事務局

議事2、3について資料説明及び資料映像上映

会長

はい、ありがとうございました。

事務局から説明がありましたが、進捗状況、今年度の事業の状況につきまして、委員の皆様からご意見・ご提言等いただけたらと思います。この機会ですので、お一人ずつ順番にお話いただけたらと思います。よろしく申し上げます。

委員

どうぞ宜しくお願い致します。

徳島県中学校文化連盟では、県の多様な作品展、各都市で行われている音楽等の発表会などの関連行事をさせて頂いておりますが、中文連が直接関わった事業と致しましては、全国総合中学文化祭への出場、それから11月に行われております県の総合文化祭の開催がございます。先程進捗状況の中でご説明が少しありましたが、「(2)未知なる開花！根付き、育てる「人材・才能」」ということで、中学生を対象としたワークショップですが、一昨年はコロナの影響がありまして作品展のみの開催とさせて頂きました。ですのでワークショップは中止という形でした。昨年度につきましては、作品展及び人数を制限して行う舞台発表を行いました。ワークショップにつきましては講師の先生の、中学生に感染症を広げてしまうのではというご心配もありまして、中止とさせて頂いたんですが、一昨年、昨年度お願いしていた鈴木良治先生、リトグラフの先生なんですけれども、本年度につきましてはワークショップを開催して頂けるとということで、11月の徳島県中学校総合文化祭にて中学生を応募し集めて、文化の森で開催をしたいと考えております。以上です。宜しくお願い致します。

委員

宜しくお願いします。

ちょっとだけお話をさせてください。昨年は徳島の未来の文学を考えるっていうので、短詩型のディスカッションをいたしました。今年は散文型を予定をしております。それと併せまして今年は、東京の新橋で初めて列車が開通しましてから150年という節目になりますので、その記念を致しまして徳島の各駅停車の旅と申しまして、76駅でございます、駅舎を写真に撮ってその駅にまつわるそれぞれのエピソードを文章を書いて、駅舎と文章のパネルを作りまして、パネル展示を致します。もうすでに駅舎が壊されて、もう本当に簡単なプレハブになっているのもございますが、昔の思い出など織り交せて、今76枚のパネルを制作中です。そしてその発表の場で、音楽の生演奏のコラボも行いながら徳島の良さをアピールしたいというような計画をしております。

それから、この会議ができませんでした時にアンケートを出してくださいということで、アンケートを出しました。その中で、徳島県の文化芸術ホールについてという質問がございまして、私はその中で駅が出来るということに大賛成という事を申しました。今日の徳島新聞に丁度、許可をしたというJR四国のことが載っておりますけれども、高齢化社会になり運転をできなくなる方も沢山これから増えます。そういう中で、やはり高齢者でもとっても元気な方々が、芸術文化に対して関心を持ってられる。そしてその方と一緒にお孫さんとか若い人も巻き込んで新しい芸術ホールに来るには、車というよりはだんだん列車の方が身近で良いんじゃないかなという事を私はとっても思っております。そういう意味なら、今後さっきの話ですが新しいホールへの催し物が決まったそのチラシには、必ず列車の時刻表を入れて頂いたらどうかという事を思っております。

以上です。ありがとうございました。

委員

まずは皆様方には、我々の事業に関しまして、ご支援ご協力を賜りまして大変ありがとうございます。今日の議題で、令和元年から5年度までの計画ということで承りましたので、あわぎんホールの方でやってる事業どうなっているかっていうのを振り返るのも含めまして、コロナの影響がどうなったかということで、数字的な事を申し上げたいと思います。令和元年度でございますが、13件の舞台芸術公演といたしまして、大きなホールで沢山人を集めて音楽とか芸能をやるっていう、そういう舞台芸術公演についての数字でございますけれども、令和元年度は13件の予定中、2件だけが中止という状況でありました。この頃からコロナの影響は受けているということです。令和2年度は、16件予定をしておりましたけれども、わずか1件しかできなかったという事で、コロナの影響を受けております。そして令和3年度については、17件中5件が中止になりましたけれども、なんとか12件は出来ております。今年度につきましては、17件の予定のうちで、只今1件だけ、残念ながら8月20日に阿波踊りと太鼓のコラボというのが中止になりましたけれども、できれば全事業をやりたいという風に考えております。さらに計画の最後の5年後につきましても、できるだけ質の良い事業を皆さんの意見を頂きながら多く仕込んでいけたらと思っておりますので、宜しくお願ひしたいと思ひます。以上でございます。

委員

あいさつさせていただきます。

このコロナ渦がまだ収まらない中、このように県の方ができるものを進めていくという事で、関係の皆様、本当にお疲れ様でございます。NHKの方もですね、8月にNHK音楽コンクールをコロナの感染対策を講じながら開催したりとかですね、アフターコロナに向けて文化活動等々を進めていく最中でございます。私事といたしますが、NHK事なんですけど、来年実はNHKが徳島局90周年ということで、文化芸術活動等々ですね、徳島をもっと更に盛り上げていく為に、色々な事をやっていきたいと思っております。その時にNHK単独じゃなくて、各種団体皆様とですね、連携しながら盛り上げたいという風に思っておりますので引き続き宜しくお願ひ致します。以上です。

委員

大学で、十何年来ずっと歩き遍路をやってきました。学生が大体100名以上一緒に歩く。そこは2泊3日で体験型学習で、教育ていうのは地域の人々と知り合う、そしてその人と交流を持てる能力が非常に大事であると。そういう事でやってたんですが、さすがこのコロナっていう事で、バスをチャーターしたり、百何十人泊まる遍路宿はなかなか難しく、結局この3年くらい止まってしまっています。あと、子供を対象とした教育と学校を考える会、それは数は少ないのでも実施させて頂いております。これも、子供と遍路をやっていく、これに対してはなんとか出来る状況で。私自身、四国遍路に出させていただきまして、県の遍路道、また札所寺院の調査、その調査の委員会にも入らせて頂き、また、四国全体の世界遺産に向けての委員会にも参

加させて頂いております。このコロナの中でも、その中で着実に調査を今詰めています。こういう形で我々としても少なくともこの厳しい中で協力させて頂くという事があります。それと、もう一つ、やはり、阿波に来た限り阿波の文化を知って出て行った、また教員になるのであるから阿波文化というものを広げて頂けるような、その文化そのものを理解し、そういう教員を送り出していきたいと考えております。阿波踊りの場合は NHK さんも撮りたいということで、テレビに映させて頂いてどうもありがとうございます。クラブ員として鳴教連として学生達、これは徳島だけであって、他の地域から初めて来て参加すると、そういう意味では大学というのが一つ文化の接点として広めていくための機能を果たしているのかなと思います。それともう一つ、「レキシルとくしま」という、これも評議会の委員をやらさせて頂きまして。特に私が感動したのが南蔵本、今の蔵本の所で行ってきました、漆の赤糸でありますね。これは朱で染めた物であります。縄文時代の末から、平安時代の、弥生時代の初めの層に出てきた物です。糸を朱で染めてるんですね。糸を染めたもので、その素の糸の束ねた物が出てきたと。これは日本で初めてじゃないかと私思っています。こういう物も、やはり次から次と新しい物が出てきてきますので。レキシルも色々活動していますので、また支えて頂ければありがたいなと考えております。大学というのは、若い学生が集まっております。学生に文化の大切さ、地域の活性化の為に文化というのがどのような役割を果たすかを知って頂いて、そういう風に送り出そうと考えております。今後ともよろしくお願い申し上げます。

委員

よろしくお願い致します。

県から補助金を頂きまして、藍の文化をどう継承していけば良いのかという勉強会を昨年度からスタートさせて頂いております。ちょうどこの日曜日にも第3回目として、コロナ渦ではあったんですけども、対面で24、5名の参加者で開催させて頂きました。今年度のあわ文化創造支援事業とした、県の関連事業に阿波藍が入っていないのは少し残念に思っている次第です。沢山文化芸術活動の団体さんがいらっしゃると思うのですが、それぞれが文化伝承のために工夫されて講座を開かれたり、講義をされたりしていると思います。私の方も、新たな魅力を発見することであったり、興味を持ってくださる方に情報発信していくということで、情報を届けるということで、すごく苦労している状況です。(3)②のところで、文学書道館や阿波十郎兵衛屋敷などの方で、沢山講座などを開催をされておりますけれども、質問としては、このような講座に対してはどのような方が参加されているのか。また、年代ですとか、新しい参加者が多いのか。どういう風な形で情報発信をされているのかという事が、お分かりになったら教えていただけたら助かります。

委員

よろしく申し上げます。

先ほど令和3年度までの報告を聞いておまして、コロナ渦でも色々工夫をされているなという風に思いました。コロナで色々不便な事とか、中止となって残念な

事とか色々ありましたが、その中でもちょっと希望が見いだせるなと思ったことが大学運営とか大学の授業を通してもありました。それは、ICT の活用です。もしコロナというものが無かったら見えてこなかった部分と言いますか。私自身どちらかというアナログの方、文学の方が専門ですので、どちらかというアナログの方を傳承してきた方なんですけれども、それでも授業を余儀なくされる。ZOOM ですること、遠隔によるリモート授業を余儀なくされてみんなでやり方を工夫したりしているうちに、こういう方法で教育をすることもできるんだという事を知ることができました。もちろん、対面での授業には敵うものはないと思います。けれども、個人と個人を繋ぐ、多くいても、一斉の授業でありながらも個人と繋がっているという感覚を持てる授業であったり、小人数の授業であると余計にその感が、家でいる学生に授業をする中で感じたという事もあります。それと動画配信とかそういうものを工夫して教材を作ったりしているうちに、今の学生にとってそれ良い事か悪い事か分からないんですけど、動画の持つ威力といいますか、その大きさという物にも気づかされました。本学の方でも YouTube スタイルというものを投資して作っております。学長が力を入れまして、YouTube を使って色んな事を発信すると。5 番目の「未知なる発信！」というところでも、アクセス数が増えたということがあります。これはコロナ渦でも衰えなかったというか。むしろ、伝達手段、発信の手段が変わっていったという事には今後も自覚しなければいけないという風に思っております。せつかく 2017 年から 19 年にかけてインバウンドで徳島が注目されて、外国で注目されて、特に西阿波地方なんかでは、祖谷とか沢山の外国人の人に注目されていました。それがちょっとストップになってしまいました。それは非常に残念ですが、大学の方でもインターネットを通じて、海外の学生さんと繋がるという方法を続けております。そうやっていつも、昨日の新聞にも載っておりましたが、中国湘潭大学と国際交流というものもしましたし、今後はウクライナの情勢ってということもありましたが、色んな国とネットを通じて繋がることもできる。例えば新たな発信方法とか、世界と直接繋がる方法を 2 年間の間で、我々は徳島だけではないですが、学んだのではないかなという風に思っています。今後徳島の文化、徳島が世界と繋がるという、世界にも発信できるというチャンスを得たという風に、良い方にも解釈していきたいなという風に思っております。大学もその中の一つの拠点となるようなお手伝いが出来ましたら嬉しい事ですので、またよろしくお願い致します。

委員

普段は大学で書道を勉強しているので、文学書道館についてちょっとお話しさせて頂きたいなと思います。私は大学進学を機に徳島に来たので、初めて来たときに文学書道館という施設がある事がまず驚きまして、私は福岡から来たんですけれどもそういった施設がなかったので非常に勉強しやすい環境があると思えました。そして、大学進学 1 年生の時よりも今の方が文学書道館の講座の回数も増えていきますし、そして講座の内容も充実しているなというのを、年々充実してきているというのを実感しております。今年の 10 月と 2 月に石飛博光先生と今井凌雪先生という、日本を代表する書道の方の展覧会がありまして、石飛先生本人もご参加と、今井凌雪先生の書道会

を、現会長の中村先生をお迎えして講座があるという事で、私自身も応募させて頂きました。そのように日本の書道を代表する先生達の作品を見ることが勉強している立場の者からしてもすごく嬉しいですし、逆に書道にあまり親しみが無い方も行きやすいのではないかなと思います。コロナもある中、このような開催があることは非常に嬉しく思いますし、これからも多くの方が書道に親しみを持てるようになれば良いかなと思います。ありがとうございます。

委員

どうぞよろしくお願い致します。

私たちの協会もここ2, 3年の状態を申しますと、このコロナが発生したときには国からの指導で間隔を開けなければいけないということで、あわぎんホールさんでいつもお世話になっておりますが、やはり800人、900人入る中で300人やそこらでは公演が仕上がらないなということで、55年ぐらいの間で初めて令和2年は中止となりました。令和3年にはとにかく赤字になっても、人数少なくなってもやりませんかということで、団員が皆まとまって会を行いました。赤字を覚悟でやったんで、チケット販売しておりますが、やはり人数が少ないですから赤字を覚悟でやりました。今回は、まさかこんなにコロナが長引くと思っておりましたが、やはりそれにコロナで稽古を休む人が多いので、加盟団体の減少。というのは8団体が、8流派が舞踊協会に加盟致しておりますが、実際は7流派が動いておるわけなんです。そのうちの一つの団体が実は誰も参加できない。ということになりますと、今まで7団体が10ぐらいの出し物をギリギリのところまで活動しておりましたが、一つの団体が引いたということになりますと本当に公演としてはチケット販売しておりますが成り立たない状態になっております。今回も2年目の令和4年が、中止となっております。ただ一つ明るいことは、芸術ホールが目の前に来ておること。それだけが楽しみで、私たちも残りの者で頑張っってやっていきますので、芸術ホールの日も早い完成と、皆様のご支援ご協力を宜しくお願い申し上げます。以上でございます。

委員

よろしく申し上げます。

私の方から高校の方を中心にお話しをさせて頂きたいと思いますが、先程の基本計画の進捗状況のお話の中でもありました通り、高校の方でも文化活動を表現する場がコロナの関係で一旦ほとんど無くなっておりました。本当に何も出来ないような、発表する場もないような状況で。昨年になりまして全国とか、高等学校総合文化祭、県の高校総合文化祭も工夫をしながらなんとか開催ができて、少しずつではありますけれども表現する場所が戻ってきたというような感じですが、今年度になってからは、かなりコロナ以前に近いような開催の状況にはなっておりますが、中身としてはやはりまだまだイベント、同じ様にはいっていないという風なところですが、県外からの指導者につきましても、今まではかなり指導をお願いしていたんですが、緊急事態宣言とかの影響がありましたのでこの6月ぐらいまでは来て頂くことができないと。リモート等も活用して指導して頂いてはりましたが、やはり生で指導して頂くことがな

いというのは、特に芸術関係、音楽関係なんかは、なかなかというところで色々苦労しておりました。一番ちょっと心配しているのは特に今年の3年生。高校3年生は入学した時からこういう風な状況の中で、コロナの影響を受けて活動にも制限がかかっておりました。3年生自体がこれまでの高校での文化活動っていうものがどういうものかという経験が非常に乏しいという風な状況の中で、その下の2年生1年生も3年生を見て大体育っていくんですけども、そういうところがなかなか出来ないといったところで、これから以前に戻すのかどうかというのがありますが。アフターコロナ、ウィズコロナという中でどういう風な新しい活動形態とか、活動の仕方ができるのかというのを色々錯誤しているところです。そういった状況の中で、今年皆さんご存じかと思いますが、この夏に四国でインターハイが開催をされました。7月28日に総合開会式がアスティ徳島であったのですが、このインターハイ自身は運動部の全国大会ですが、総合開会式というのは実は文化部が主体となってパフォーマンスを發揮するような場となっております。今年、住友紀人氏に総合プロデュースをお願いして、四国遍路をテーマに開催を致しております。そこにはもちろん吹奏楽部であるとかマーチングバンドとか合唱部も参加したりとか、徳島名物として阿波踊りであったりとかダンス、支援学校の和太鼓も参加をしたりして、文化部が全面的に協力をして総合開会式を成功させたという風なところもあります。これについても何年に1度の特別なパフォーマンスでもあるんですけども、生徒達が行ってきている文化部の活動であるとかそういう風な表現活動が根底にあって、それを基に住友さんの方で四国遍路という、私たちの日常に根付いた文化に結びつけて頂いたという風な感じを受けたところです。やはり日常の生活の中に根付いている行動であるとか、考え方というのがある、素晴らしいパターンとか生まれてくるんだなという風な事を感じました。やはりそれと発表する場所が与えられるかどうか。特に高校生のように、これからどんどん伸びていく子供たちにとっては、発表して、させてもらえるというか、それがとても大切だなという事も思ったところです。コロナ渦で活動を色々制限されておりますけれども、普段の生活の中にも文化活動をしっかりと根付かせていくのが、できていければ、それが現在から次の世代へと繋がっていくのかなという風に思いましたので、学校でも文化的な活動の一つずつできたらなと、普段の生活として根付かせていきたい、そして発表の場もできる限り催していけたらなという風に思っておりますので、また直しくお願い致します。以上です。

委員

失礼致します。

町村会の代表という事で出席をさせて頂いているのですが、他町の状況があまり把握できておりませんので申し訳ございませんが、美波町の事を紹介させていただきます。コロナ渦で行いました行事というのが、「にこにこ人権フェスティバル」というのを毎年開催しておりますが、規模を縮小しまして令和2年度には高石ともやさんのコンサート行ったであるとか、令和3年度は落語会で露の新治さんの落語を行ったり、今年度は、ソプラノ歌手をお迎えして文理大学の先生に伴奏をお願いした上人権コンサートを開く予定となっております。あと、梅田俊作さんという絵本作家が美波町に長

い間お住まいになってたんですが、その先生の原画3作品分を今年度頂きまして、また原画展を行いたいと思っておりますが、また他町でもよろしかったらお使い頂いて、貸し出しとかを考えております。あと、何人かの方にお配りをさせて頂いたんですが、徳島県は水族館が無いんですが、美波町にウミガメ博物館という施設がございます。そこが少し老朽化をしております、そこを改修するという事で、ただ今クラウドファンディングを行っております。ウミガメのその快適な、泳いだりとかちょっと今狭い水槽で泳いだりしておりますので、広々とした水槽にしてあげたいというような思いもありまして改修を考えております。5年間掛けて改修してまいりますので、またご協力宜しくお願いしたいと思っております。徳島県には水族館がございませんので、唯一魚、海洋生物と触れ合える館になっておると思っておりますので、また宜しくお願い致します。失礼します。

委員

どうぞよろしくお願い致します。

専門分野としましては、ウィンドオーケストラ、吹奏楽の指揮者を勤めてるんですけども、同時に大阪市のウィンドオーケストラというプロジェクト楽団の演奏活動も行っております。徳島と関西の方を半々の状態で行ったり来たりしてるんですけども、ちょっとそういった観点から述べさせてもらいたいと思うんですけども、ウィンドオーケストラ吹奏楽っていうのは、特に中高生にとりましてはクラブ活動で非常に盛んな分野でありまして、音楽全体の関わっている人口からいいますと今世界中で最大の人数が携わってるんじゃないかなと思います。大阪市ウィンドオーケストラというのは、もうほんと大阪市教育委員会の生涯学習部に所属しておりました。活動としましては、当時は生涯学習ですから、中高生、小学生ですね、小学生中高生に対しての芸術活動、芸術鑑賞会、それから一般市民に対する音楽鑑賞、本格的なコンサートというものを中心に演奏していたんですけども、今は組織の方から外れまして、公益社団法人大阪市音楽団大阪市ウィンドオーケストラといいます。大阪市の支援を頂きまして今も活動をしているんですけど、ちょうど新ホール、徳島文化芸術ホールの完成に合わせてコロナも終息するんじゃないかなと、ちょっと甘い期待かもわかりませんが考えております。とにかく最初のお話にもありましたように、コロナ終息の折には文化的なルネッサンスになりうるんじゃないかとのお話ですけども。ちょうど今クラブ活動っていうのが、すごく今大きな痛手を受けておりまして、コロナももちろんそうなんですけれども、もう一つ、教員の勤務時間ですね。関わる時間がもうすごく大変になっていまして、だいぶ大阪の方でも、全国的にもこの話が進んでるんじゃないかなと思うんですけども。そうなった時に、先生からも色々お話ありましたけれども、なかなか今コロナで呼べないということもありまして。この新ホールの一つの目的として、県内外の優れた文化芸術の鑑賞機会の創出を図るためっていうのもありますように、例えば文理大学の方でもウィンドオーケストラ、色々な機会がありましたけれども、演奏活動やっていって生涯学習的なこともできたらいいかなと思いますし、県外からの優秀な楽団、フルオーケストラ、吹奏楽団、ソリスト、色々な方を招いて、もちろんホールですからできると思うんですけども、そ

の中でも吹奏楽っていうのが一つ、その教育の一番関わりやすい分野でして、教育から文化への橋渡しをする一番今理想的な形になっています。そういうところで、そういった何かホールを通じて活動ができればなという風に考えておりますので、どうぞひとつよろしくお願ひしたいと思ひます。

委員

次の担い手となる人材育成っていうのは、文化芸術の分野におかれましても、これからの課題のひとつであると感じているところであります。徳島市の事業の一つとして、アウトリーチ事業と致しまして、小学校、中学校に、例えばピアノの演奏者に出して頂いて、子供と音色を聞いて生に聞いていただいたり、その子どもの感性を豊かにしたり、文化芸術の歴史、あとは質問コーナーだったりっていうのを設けて、身近に感じてもらえるような事業を行っております。それによって質の高い文化芸術に触れることができるということで、これからも徳島市としては、益々それを重点的に事業展開をしていきたいなと思うんですけども、先ほどの事業報告の中でもありましたように、それぞれの事業で工夫されている点を徳島市でも取り入れながら文化芸術の振興につなげていけたらと思っております。また、それぞれの今日お集まりの分野の方と文化の接点を広げていけたらなと思っておりますので、よろしくお願ひ致します。以上でございます。

委員

まずこの資料の方から感じたことを一言述べさせていただきます。基本計画の進捗状況の中で、地域づくり地域団体の支援というのを見ていますと、各それぞれの団体が非常に頑張っていて、コロナ渦でもありながらも、県に対する色んな事業の申請をする、申請をするなりして、色んな文化活動にずっと取り組まれていらっしゃるっていうことに、まずそれぞれの団体に敬意を表したいと思ひます。イベントなんかするのは大変に困難な時期でもありますし、その中で計画を立てて実行に移すっていうことを日々やられてるということに非常に敬意を表したいと思ひます。また、去年はここにあります人形浄瑠璃振興会、県文化賞をいただいて非常に光栄であったんですけども。あとは、人形浄瑠璃っていうのは今コロナとか、先ほどの映像にあった農村舞台での演ずるとか、色んなところに派遣されて演ずるとかいう事を、十郎兵衛屋敷の活動が一番多いんですけども、やっぱりコロナで中止とか、無観客とか。まだ無観客でも開催して頂ければ良いんですけども、農村舞台なんかはほとんど中止。また、生身の人間が演じておりますので、お客さんがいらっしゃると、いらっしゃらないとではもう全然身の入り方が違うというか、お客さまの声援なり拍手なりがやっぱりモチベーションになって、どんどんどんどんこう、自分で高揚して行って、良い物を見せようという風に努力するっていうことも御座いますので、非常にやりにくい、このコロナの期間を過ごしております。この間に高齢化が進んでおりますので、人形浄瑠璃団体っていうのは平均年齢多分70歳代の座があったりとか、若い座もあるんですけども、その中で今、月2回なんですけれども、一般の方々に人形浄瑠璃を実際にやって頂こうということで、振興会の有志達が未来塾っていうのを立ち上げまして、

それには、3歳、4歳ぐらいの女の子から、70代80代までいらっしゃるんですけども、月2回来て人形浄瑠璃の基本、あと練習しています。今ちょっと小学校のワークショップに出掛けたりとかさせて頂いて、やりがいと生きがいと、両方の対策になりつつあるような気がします。と、3年、4年ぐらい前ですかね。小学校の社会科の教科書に人形浄瑠璃が取り上げられまして、それで十郎兵衛屋敷に来られたりとか、また講習会じゃないですけども、学校へ行ってい色んな説明をしたり、実際に実演をしたということで、ある中学校はその、中学校、川内中学校なんですけども、人形浄瑠璃っていうか民芸部に入部する子供が今年どんどん増えまして17名ぐらい。今まで全体で17名もいなかったんですが、10名以上入りまして、一つの演目ができそうだなあという事になったと。その子供たちが言うのには、その小学校の時に人形浄瑠璃を学校まで来て見せてくれて、扱い方も僕達もさせてもらったから、やっぱりそのことが非常にこう印象に残ってて、中学校になったら民芸部に入って人形浄瑠璃しようという風に気になったっていう風な事を言ってくれたんで、良い授業になったなという風に思っておりますけれども。これからも、その学校の派遣であるとか、部活動の支援であるとか、そういうようなことに振興会としてはずっと続けていきたいと思ったんですけども。それよりも、足元の座の高齢化をどうしようかなと言う風な事が。なかなか各団体そう思うんですけども、一つのグループができると、それに後からポツと入るのはなかなかやりにくいっていう風な事もあって、なかなか新しい人が入らないっていうような事が、各座の悩みではあるんですけども。色々座員募集をしてみたりとか、色んなことを工夫、それぞれの団体もしつつ、なんとか続けていこうという風な事でやっております。県の支援があったりとか、文化振興財団の支援があったりして、やっとなんか成り立っているような、団体ですけども、将来この徳島の伝統芸能は続けていかないと、絶やしてはアカンという風なことで、みんなが力を入れて頑張っているような現状です。全然話が変わるんですが、新しい物、芸術文化ホールがどのような物になって、どのようなソフト事業があって、また運営がどういう風になるかっていう事は、振興会の会員も色々気にしているところではあるし、その人形浄瑠璃自体が、多分演ずるような舞台も作って頂けるだろうと思うんですけども、それがどのような物なのかっていう風なこと。運営の方法なども早く決まって、早く開館して欲しいなあと。その時には徳島県内の文化団体色んなことをやっている方々が一堂に会するようなイベントがあって、みんながそれぞれ発表の場があるようなイベントをして頂けたら非常にありがたいなと。昔文化事業に関わっていた時に、会館には市民参加のオペラができたらいいなと。で、市民のオーケストラで市民が参加してという風な事ができたら良いなという事を思ったこともありますので、是非文化に関係する方々が、あそこのホール行ったらなんかあるよ、なんか楽しそうな事があるよっていうようなホールを作って頂きたいと思っております。以上です。

委員

宜しく申し上げます。皆さんのお話を聞かせて頂きまして、このコロナ渦にあって、よくそこまでの活動の範囲を狭めることなく継続しているということで、本当に頭

が下がる思いです。で、私からは、大きく3つのお話をしたいと思います。1つは私の関わった事、もう1つは今回の5つの目標「未知なる」シリーズですね。これは5つの目標に関しては私の意見。最後に新ホールに関してのということで3つに絞らせて頂きます。まず私の関わった事なんですけど、美術家協会の大きな役割として、県内の二大コンペと言われている県美術展それから放美展。四国放送主催であるんですけど、この二つのコンペ、コンペティション審査というところで関わっておりました。ご存知の通りコロナ渦で、公開、発表できなかつたということが続きましたが、昨年の秋に開催された県美術展。これがコロナ渦の中で、復活した県内のコンペの最初でした。で、広島から審査員をお呼びして、私がエスコートしたんですが、非公開という形ではありましたが審査員にお呼びしました。その後、今年に入って4月の下旬に、放美展がありまして、これも直前まで、わりとやるのやらないのか、どれぐらいの規模やれるのかということで、すったもんだありましたが、無事に開催ができて非常に多くの方に来場して頂けたと思いました。両方とも非公開ということで、本来その公開審査というのは一般の方も、実際にその作品の製作されていない方も、その様子を窺い知ることができるということで、非常に重要な部分なんですけど、これを失われてしまったということは、まだ完全な形ではなっていないというふうに私は思います。個人的には、この審査の状況ですね。YouTube か何かで発信できたら、出品者はもう本当に必死で見るだろうと思うし、また別の展開があるのではないかという風に思っています。ただ機材とか、そのやっぱり運営に関しては人の手は必ず必要なので、その辺はこれからの課題になろうかと思っています。それと、もう一つ私の関わった事として、今年の2月から3月ぐらいで決定したことなんですけど、こちらの徳島県の経営戦略部さんの方でちょっとお世話になりました。徳島 PR 広告デザインコンテストというのがございました。これの審査員を務めさせて頂いて、どんな内容かと言いますと、徳島空港の北側に布団店の倉庫なんですけど、そこの壁面を使って徳島の魅力をビジュアル化できないかという、そういう課題でありました。6 m × 6 0 m 大変スケールの大きな壁面ですので、なかなかその誰でもがそのコンペティションに参加できるというような形ではなくて、やっぱりある程度そのデザインをれてる方ということに限定はされたんですけど、お陰様で県内も、一部海外の方も参加されたということで、数は少ないんですけども、70, 80点あるんですけど、非常にユニークな物もありまして、現在も展示されておりますので、宜しければ空港にお寄りの際は北側の倉庫、見てみてください。私の関わった事は、大きくそんな感じです。5つの目標に関しての私の主観ですが、2番目の人材、それから3番目のまちづくり、5番目のブランドの創出ということで、これ、またがる形になると思うんですが、やはりその徳島ファンといった広がりという意味では、もうちょっとその著名な、いわゆるバズりやすい方というの。具体的に申しますと、私週一回映画館に行くんですけど、映画の公開で今ですね、この8月、実は徳島県すごく頑張ってるというか、すごい方がいまして、三木孝浩さんっていう方が監督されてるんですけど、この方の作品が実は映画館で三作品。割とメジャーなタイトルというか、やっていらっしゃるんですけど。やっぱりその作品をやった方が徳島の出身の方であると、どれだけ知られているのかとか、あと三木さん以外にも私の知り合いでしたら、アニメーションの幾原

邦彦さんという方、この方の作品も実は公開されている。ただですね、私の言った作品の中では、あまりお客さんが来ていない実情であります。うこういった県出身で、今第一線で活躍されている方というのを、もう少し徳島県の PR、アピールつなげられたらもっとプラスに働くのになあという風に、本当にちょっと残念な次第です。やっぱりこういうところで徳島県の人がこれだけ活躍しているんだという憧れを持って若者を引き付けるという一つの要因になると思います。映画だけで言えば、映画の本編始まる前に予告編があるんですが、その前にですね、ローカル CM が入っています。ここにも、コロナウイルスであるとか、そういった社会的に重要な告知はされるんですが、ここにやはりもう少し PR っていうのを盛り込む、付け加えることはできないのかなと、ちょっと打診です。3 番目、最後ですが、文化芸術ホールに関してですが、今回新しいホールの最終デザインを見た時に、これはもし完成すれば、うまく誘導すれば、世界的に有名な建物、建造物として非常にバズるだろうなという風に直感を覚えました。花びらが重層的にデザインし配置してあるというところで、耐久性はどうなんだろうとか、余計な老婆心も巡ったこともあるんですけど。とは言え、そんなユニークな物っていうのは、なかなか徳島にも近県にも見当たらないので、もしこれが出来るのであれば、やはりそれに見合った中身、コンテンツもデザインされるべきであろう。やはりその箱、入れ物と中身、うまく連携しないと長続きしない。ありましたよ、アップル社ですね。ハードとソフトっていうのを両方とも自前でやっているっていう。そういう強いところっていうのは徳島にも持ち込めたら良いんじゃないかなという風に思っておりますので、その為には新しい駅舎も含めて、デザインプランニングというものが重要であるかと。SNS とかアプリとか作ったりして、どなたでも参加しやすい窓口というのを用意して頂く必要があらうかなと思います。早い段階から口コミで沢山の。この沢山というのは、今の時代は近所の範囲ではなくて、もう世界的な話になってくるんで、これ世界的に拡散していけるもんじゃないかなという風にすごく期待をしております。以上です。

副会長

皆様から様々なご意見頂きましてありがとうございます。私も同感でございます。令和 2 年、3 年度、コロナ渦で大変厳しい状況におかれた中でですね、ご苦労されながら、一部の事業は中止されたり、延期されたりという事はありましたけれども、オンラインの活用であるとか、色々赤字覚悟でやられたという事でございまして、皆様方のご尽力で頑張ってもらったというのがまず第一。県の資料の中でもそういったことを伺っております、中止されたものもございまして、そういった中で様々な活動があると、その目標数値以上にですね、やられているということには敬服したいと思います。特に徳島大学に関して言うと、県外の学生が 7 割で徳島県出身の高校生がいるのは 3 割ぐらいということで、県外の学生が多いわけでございます。それで私、できるだけ徳島県内に若者人口定着させていこうという活動をさせて頂いておりますが、その中で一つ言えるのが、特に県外出身の学生に徳島県のいわゆる地元地域思考科目っていう教育を行うと、徳島県に就職してする確率が高いというのが、優位なデータとしてございます。そういったことで、徳島県の文化も含めましてですね、良さ、

魅力、こういったものを県外出身の学生に知ってもらうことは非常に大事な事だと今でも考えています。特に阿波踊りなんかですね。ここ2年ぐらい色々物議を醸しましたけれども、今年久々に街にでて、学生非常に喜んだということがございます。色々ありますけれども、そういった中でやはり実際にその徳島県の魅力、こういったものをこの委員会、市議会、議員さん含めてですね、文化団体が魅力を増していく、非常に大事な事だと考えています。あと、文化ホールですね。文化ホール非常に基本設計の段階では魅力のあるものだと考えております。まだ具体的に、委員さんお話しするようにどういう形で運営するのかとか、具体的に分からない事がありますが、非常に県民の期待は高まっているのではないかと思います。駅舎も含めまして利便性向上とですね、文化、シンボルということで、高まっておりますので、今後実施設計なり、管理運営ですね、やり方について検討進められているということでございますので、できるだけオープンな形で県民の方にアピールして頂ければという風に考えています。

会長

どうも皆さんありがとうございました。この阿波文化の更なる発展っていうのが大きな目標でですね、これ5つの目標で、それぞれのは令和3年度の活動状況、それから令和5年度の計画ということをお話し頂きましたが、このコロナ渦で埋没せずに、それぞれの分野でよく頑張っておられるなっていうのは、皆さんと同様の意見です。で、これ一つの分野では目標ってそれぞれ関係があるんでしょうけど、私自身は、この2番の「未知なる開花！根付き、育てる「人材・才能」」とか人材育成、若者参加促進。それから5番目の、「未知なる発信！「あわ文化」ブランドの情報発信」ですかね。これが非常に大事なんじゃないかなっていう風な印象を持ちました。文理大学で学生の授業を見ておりますと、今年は久しぶりに阿波踊りがあったんですけど、非常に喜んで生き生きと参加したのが印象に残っておりますし。それからこの阿波踊りもそうですし、人形浄瑠璃クラブもあるんですが、実は県外の出身者が非常に熱心です。クラブ中心になって活躍している、そういう状況です。それから、鳴門教育大学の話にあった遍路ウォークをうちもやっております、これ4月に入学してきたすぐに、入学生に対して徳島の空気に触れてもらって文化を知ってもらう、その一端を知ってもらうということで、これ、今コロナで2年間、中止を余儀なくされてるんですが、非常に学生喜んでですね、徳島出身者も県外出身者も一緒になって、学生の親睦を兼ねてるんですが、お遍路というのはこういう風に歩きますっていう一端を知ってもらって非常に意味がある、ということで。なんとかまた早く再開したいと思っております。見ておりますと、徳島、阿波文化と言いますか、県外の人が見たときに非常にこう新鮮といいますか、特に人形浄瑠璃、あるいは遍路、あるいは第九の演奏、徳島という土地に非常に興味を持ってもらえる。そういう、大きい素地がありますので、何とかそれを広げていければという印象として持っております。それでは最後にですね、今まで色々ご意見を伺いましたけれども、事務局から、回答といいますか、ひとつよろしくお願ひします。

事務局

よろしくお願い致します。色々なご意見本当にありがとうございました。参考になりました。時間もないので簡単に解説できるところをさせていただきたいと思います。中学、高校の取り組みと致しまして、中学、高校それぞれ3年間しかないんですが、このコロナの状況で本当に3年間発表の場がないような状況になりました。今年はどうにかしたいと思ひまして、私ども先日行いました音楽祭、徳島中学校オーケストラ部に演奏して頂き、発表の場を少しでも提供できることになったかなと考えております。また、大学の各分野の先生の皆様方からもいろいろご意見をいただきました。リモートとしても新しい教育のやり方があるんじゃないか、あと今お話があった子供歩き遍路、私の子供も実は参加させていただいております。8年連続で参加させていただきます。ありがとうございます。そういうのが、いよいよ再開し始める。そして、藍の会が140名リアルで実際開催されると、ようやくこのコロナの影響がちょっとずつ収まってきたかなと思っております。また、文学書道館等での講座開催がどのようなものかというご質問頂いておひまして、回数見て頂いたら、105回っていうのがあるんですが、例えば大高翔さんの俳句教室ですと比較的若い受講生の方が多いですし、小坂奇石さん、書道ですね。そういう方ですとやはり、ゆかりのファンの方が多いと、いろいろ各講座よって変わって来るところでございます。今の話ですと文学書道館での書道の解説というのは、本当に専門家の方に対するような解説講座が非常に多かったんですが、それではどんどん人が減っていくと言うので、今は入門向けの講座というのも非常に多く、館長が考えて開催しております。その点、親しみやすいような講座が増えているというような評価をいただいたのだと考えております。あと各種文化団体の皆さま方からもご意見いただきました。76枚を写真にしてそれを生演奏とのコラボ、こういう風な催しもようやくできるようになってきたのかなと。ただ、このコロナ3年続きますと発表の場が無い、会員がどんどん減ってくるというようなご意見もいただきました。これは本当に今、厳しいところだと思ひます。昨年度、一昨年度とこのコロナでイベントをする場合、県からも補助をさせて頂いておりますが、中止になった場合でもその費用は、少しでも補助をさせて頂こうという努力をさせて頂いたんですが、やはり、非常に厳しい状況ではあると認識しております。引き続き県の方としても、精一杯努力をしていきたいと思ひます。あと、どんどん講演、イベントを開催して行きたいとのご意見を頂きました。コロナ禍の今、現在多いんですが、その中でもコロナ対策の知見というのがだいぶできてきたと思ひますので、なるべくそういうものについて、県も頑張ってバックアップしていきたいと考えております。最後に皆さまから新ホールへのご期待、非常に大きいというのを認識しております。精一杯頑張っていきたいと思ひますので、お力添えの程、宜しくお願いします。以上でございます。

会長

ありがとうございました。

それでは、議事2、3については以上で審議を終了いたします。

せっかくの機会ですので、その他ご意見等ございませんか。

それでは、以上をもちまして全ての議事を終了いたします。議事進行に御協力いただきありがとうございました。